

OECC 技術・研修部会 「若手リーダー研修」の開催報告

OECC 主席研究員 家本 了 誌

OECC 技術・研修部会は、今年度の若手リーダー研修を7月25日と10月3日の2回に亘り開催した。今年度は、「途上国における気候変動対策推進に向けた日本の貢献～都市間連携を軸として」をテーマとし、会員より推薦された若手職員ら20名が一堂に会し、対面での活発な議論を通じ、本テーマについての理解を深めることができた。

事例発表

7月の第一回研修会冒頭、田畑部会長より、本研修の背景と目的等を含めた開催趣旨が共有された。次に横浜市国際局横内課長から、「横浜市の都市間連携の取組～公民連携による海外インフラビジネスの推進について～」と題し、ダナン市との都市間連携を通じた環境10年計画策定や脱炭素宣言の履行に向けた支援の取組などについて紹介があった(写真1)。

またOECCの渡辺研究員から、「都市間連携によるバンコク都気候変動マスタープランの実施促進」と題した発表があり、今年度より開始された両都市間の都市間連携の取組内容や2013年度より実施されている環境省の都市間連携事業及びJCM案件形成等についての解説がなされた。



(写真1) 横浜市横内課長による講義の様子 (7月25日)

グループ討議

上記事例発表を踏まえ、研修参加者は4つのグループに分かれ、①途上国の都市のニーズ把握に向けた課題、②都市間連携に求められるスキル及び③先行事例からの教訓等について意見交換を行い、全体会合において各グループの代表者から報告がなされた(写真2)。



(写真2) グループ討議結果の発表の様子 (7月25日)

第2回目の研修会では、前回議論で洗い出しを行った諸課題に対し、参加者自らの経験に基づき、政策提言に向けた議論を深めた。

所感

本研修会におけるグループ討議の中では、各参加者が異なるバックグラウンドや専門性を有する中で、短時間ではあったものの、課題設定から対処案や提言作成に至るまで、活発な議論を展開し、参加者間のネットワーク構築にもつながったものと思料され、当初の目的を十分に果たせたのではないかと考えている。

これまでコロナ禍のため、対面での会合開催が困難な状況が続いていたが、今回の研修会では、対面での開催を実現でき、参加者間のコミュニケーションを十分に図ることができたものと思われる。今回の研修を契機に、参加者間及び会員間の有機的な交流がより一層活発になっていくことを期待している。